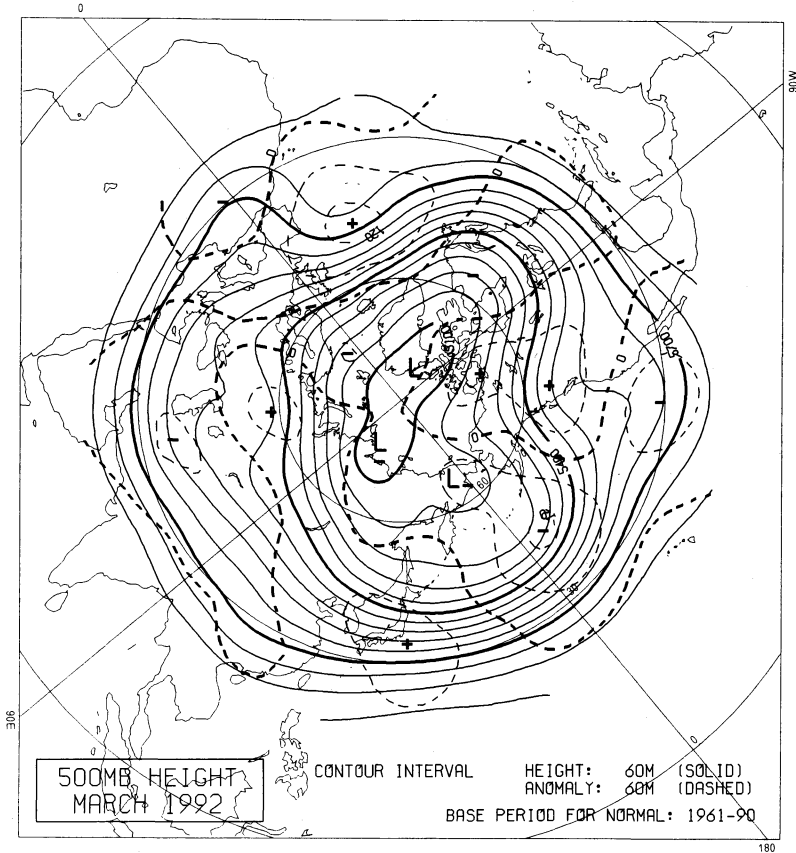


1992年3月の大気大循環と世界の天候 月平均500mb天気図.



(破線は平年からの偏差。単位m)

表1 1992年 3月の気候表

地名	気温 ℃	偏差 ℃	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級	地名	気温 ℃	偏差 ℃	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級
パリ	8.2	1.6	1.1	57	132	—	カサブランカ	14.8	0.2	0.3	40	58	2
ベルリン	5.5	1.7	0.8	79	243	6	ニオロドサヘル	—	—	—	—	—	—
ローマ	—	—	—	—	—	—	プレトリア	—	—	—	—	—	—
イスタンブール	7.7	0.5	0.3	109	156	5	バンクーバー	8.5	2.7	2.7	26	26	0
モスクワ	1.6	4.9	1.8	39	105	—	ニューオリンズ	16.7	0.2	0.1	174	137	4
オデッサ	4.4	2.2	1.2	27	116	3	セントルイス	9.2	3.0	1.2	88	106	4
ニューデリー	22.4	-0.3	-0.3	0	0	1	サンフランシスコ	14.1	2.6	2.6	105	156	5
カルカッタ	28.5	0.6	0.7	0	0	1	ニューヨーク	4.6	-0.3	-0.2	103	105	3
ボンベイ	26.1	-0.9	-1.3	0	0	4	マナウス	—	—	—	—	—	—
ホンコン	18.0	-0.4	-0.3	242	442	5	サンパウロ	—	—	—	—	—	—
チャンチュン	0.0	3.6	1.6	7	67	3	ロサリオ	—	—	—	—	—	—
ベキン	6.7	2.3	1.3	3	34	2	ホノルル	23.8	0.7	0.8	18	20	2
シャンハイ	—	—	—	—	—	—	タヒチ	27.5	0.6	1.0	270	203	5
バンコク	30.0	0.8	1.3	0	0	—	ダーウィン	29.1	1.0	1.4	163	54	1
マニラ	28.2	0.8	1.3	0	0	0	キャンベラ	18.2	0.7	0.7	54	108	4

世界の天候

3月の月平均500mb天気図では、アリューシャン付近、北米大陸東部、中東域が負偏差におおわれた。一方、正偏差域は、日本付近、カナダ西部、大西洋東部にあった。太平洋中部から北米大陸にかけての高度偏差のパターンは、エルニーニョ現象が現れているときの冬によくみられる特徴と同じだった。

① 日本の高温

日本は全国的に気温が高く、南西諸島を中心に高温となった。桜の開花も平年より一週間前後早かった。

② 中国南東部から日本にかけての多雨

太平洋高気圧が平年より強く、さらに日本海や北日本が移動性高気圧の通り道となったため、その境目に当たる日本の南海上に前線が停滞した。このため、中国南東部から東日本にかけての広い範囲で平年の2倍から3倍の雨が降り多雨となった。

③ フィリピンとミクロネシアの少雨

インド南端部からインドシナ半島、フィリピン南部、ミクロネシアにかけては少雨だった。スリランカでも1月以来の少雨傾向が続いている模様で、紅茶の減産などの被害が懸念されている。

④ 中東の低温

中東からアフリカ北部にかけては、昨年12月からの低温傾向が続いた。

⑤ ヨーロッパ北部の多雨

ヨーロッパはほぼ全域で気温が平年よりも高かった。また、降水量も多く、西部のフランス、スペインを除いて、広い範囲で多雨となった。

⑥ カナダ西部から合衆国北西部の高温

500mb天気図のカナダ西部の正偏差は月を通して続き、この地方は月平均気温も顕著な高温となった。

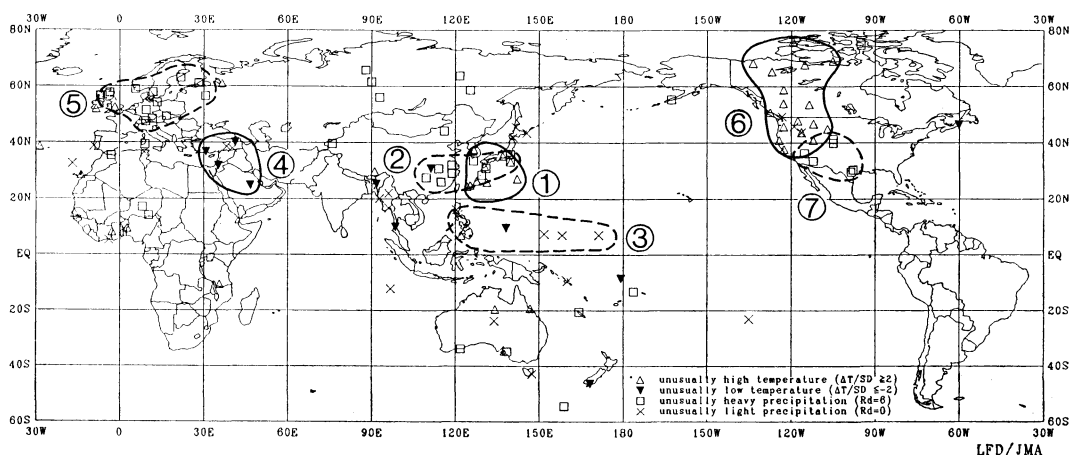
⑦ 合衆国中・南部の多雨

合衆国北西部は少雨傾向だったが、中・南部では多雨となり、昨年12月以来の多雨傾向が続いた。

⑧ その他

ケニアやタンザニアなどアフリカ東部で、高温少雨傾向。アフリカ南部も干ばつの被害が深刻になっている模様。ペルー北西沿岸地域で中旬に大雨が降り、約3万人が家を失うなどの大きな被害が出た模様。モンスーンの雨期にあたるオーストラリア北部では2月に続き少雨傾向だった。

(気象庁長期予報課 三浦 芳敬)



1992年3月の世界の異常天候分布図

△：高温 ▽：低温

図中の番号は、本文中の番号と対応している。

□：多雨 ×：少雨

1992年3月の気候表の説明。平均値は1951～1980年のデータに基づくもの。降水階級は五分位値で、0は最小値より小さい場合、6は最大値より大きい場合。500mb高度場の平均値は1961～1990年の30年平均値。